

私は、我孫子市で生まれ、間もなく北海道へ、小学6年まで安平町で過ごし、昆虫採集や安平川などで遊びました。転校の際に先生から水、緑、土の自然、川の恵み、洪水氾濫の凄さなどが書かれた「川は生きている」(富山和子著)という本を頂きました。こうして環境や土木に興味を持ち、盛岡で学生生活、寮生活を謳歌し、研究では、砕石跡地の緑化手法と景観評価について学びました。

平成11年4月より現在の建設コンサルタント会社に勤務し、主に砂防施設や護岸、樋門等の河川構造物の設計などに携わってきました。平成28年8月の台風10号による中小河川の災害復旧業務では、大規模自然災害の驚異を感じるとともに、限られた時間の中で何度も現地調査を行い、仕事を通し多くの方々の協力を得て、無事に災害査定を終えることができ、達成感や仕事に対する自信、社会的責務を強く感じることで、技術士取得への気持ちも一段と強く持つことができました。

これまで何度も失敗していた技術士試験でしたが、この翌年、平成29年度に技術士試験に合格できました。論文添削、口頭試験に向け、多くの方々にご指導して頂き、大変感謝しております。

最近では、防災、下水道、廃棄物処理等の業務に取り組んでいます。防災業務では、災害時の対応や地元の方々意見を基に防災・減災対策として反映しますが、意見交換会の場が重要だと感じます。下水道、廃棄物処理施設の老朽化対策では、利用状況や問題等を現場の方に聞くことで課題、対策が見えてきます。今後も良いものづくりのために現状、問題、課題、対策を常に意識できるよう努めて参ります。最後に自分の育った町に恩返しができるよう、被災地の復旧・復興にも携わっていきたいです。

新造 太郎 (しんぞう たろう)

●建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

勤務先

株式会社 開発工営社
水工事業本部 水工第2部



→次号は、山本知幸さん(建設部門/道路)

私は2003年(平成15年)に今の職場に移り、河川・道路事業等の環境保全業務に携わっています。

私は大学2年迄東京で過ごしました。昭和の時代です。子供の頃は川の暗渠の上と室内釣り堀が遊び場でした。休日にはプラネタリウムで星空を眺め、緑の公園を散歩するのが好きでした。しかし、学生時代に環境学のフィールドワークを重ねることで私の知っていた“自然”の概念は崩れました。そして、真の自然と向き合う仕事がしたい一心から、気候風土に惹かれて北海道に移りました。

建設コンサルの環境分野を歩んで来ましたが、事情から異分野・異業種の経験も少なからず積みました。我が道は？と悩みましたが、多様化・複雑化する最近の業務での問題把握と課題解決には広い視野を必要とし、多くの経験と“不自然”な都会生活は無駄ではなかったと感じています。

仕事では、①事前に知識を詰め込まずに「見て知りそ 知りてな見そ」、②自然環境には理屈より感性、③中庸の思想、を大切にしています。

今日の私があるのは北海道で出会った多くの皆様のおかげと感謝しています。中でも20年程前、仕事への情熱を失った時、末席に加えて頂いた「北海道川の会」の諸先輩から川づくりへの強い情熱と高い志と楽しい酒宴を学び、この仕事で社会貢献をしたいという気持ちが再燃しました。

人口減少、人生100年、気候変動etc、過去に経験したことのない時代を迎えます。環境技術者の心持ちと腕が試される時です。子や孫世代、身近な生き物が幸せに暮らせるよう、垣根を越え、知恵を絞り、肩肘張らず、力を合わせて楽しく進んでいきましょう。これからも宜しくお願いします。

貴多本大器 (きたもと たいき)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社開発調査研究所
河川・環境部



→次号は、松岡雄一さん(建設/総合技術監理部門)